



ケイウギンコウのケイウウインコ



博物館に  
行ってみよう!

もっと知りたい!  
千葉のおもしろ  
博物館

第4回

市原歴史博物館 (市原市)

# 王賜銘鉄剣

工賜

約160,000の古墳が眠る千代田時代



「王」とは誰なのか?

Iron Sword with  
the Chinese Character for  
"King" Inlaid with Silver

The inlaid character for "King" is  
an important key to understanding the Kofun period.

この鉄剣は、約160,000の古墳が眠る千代田時代に作られたもので、その銘に「王」という文字が銀で入れられています。これは、この時代の重要な鍵であり、王の存在を示しています。

この鉄剣は、約160,000の古墳が眠る千代田時代に作られたもので、その銘に「王」という文字が銀で入れられています。これは、この時代の重要な鍵であり、王の存在を示しています。

WHO IS THE "KING"?

インタビュー

“中の人”に  
聞いてみました

# 県内最多の指定・登録文化財が存在する市原市。その中心的な博物館

養老川に育まれた浜谷から海へと続く広大な台地にある市原市は、古来より人びとが集い、物資や情報が行き交う拠点となってきました。こうした歴史、恵まれた環境を背景に、市内には国指定6件、県指定27件、市指定64件、国登録23件の合計120件(2024年4月現在)という県内最多の指定・登録文化財が全域に存在しています。

市原市では、市民の皆さんとともにこの貴重な歴史遺産を未来へつないでいくため「I'Museum」(アイミュージアム)と名付けたプロジェクトを推進しています。市原歴史博物館はその中心となる場所で2022年秋にオープンしました。旧石器時代から近現代まで市原の歴史遺産の価値と魅力を分かりやすく伝える貴重な遺物・資料を多数展示しています。

常設展示のほか、企画展示や特別展も行っています。2025年の企画展示では「地域とあゆむ小湊鉄道」として五井一里見駅間開業100周年を迎えた小湊鉄道の沿革や建物の魅力、取り組みなどを紹介しました。

また年に1度程度の特別展も開催しています。2024年に行った「旅するはにわ 一房総の埴輪にみる地域間交流」では全国から多数の埴輪ファンの皆さんにご来館いただき、非常に大きな反響をいただきました。今後も市原の豊富な歴史遺産、町の魅力を発信できる企画を考えておりますので、ぜひご来館ください。



市原歴史博物館  
館長 鷹野 光行さん



▲常設・企画展示室。市原市の各時代ごとに分かりやすく展示されています。通路も広く、とても見やすくなっています。

## 市原歴史博物館とは？

「I'Museum」とは、市原市全体を歴史のミュージアムとして捉え、貴重な歴史遺産を未来へつないでいくプロジェクトです。市原歴史博物館はその活動の中心となる施設です。

「いちはら」の頭文字と「私」という意味の「I」と「Museum」

をつないだロゴには「いちはらの」と市民の皆さん一人ひとりが「わたしの」ミュージアムと感じられる、そんな意味が込められています。



## ごだいりきせん かじ 五大力船の舵

入り口正面奥の「民俗展示室」に入ると、天井に届きそうな巨大な木製の展示物が。江戸時代から昭和初期まで市原と江戸・東京の貨客輸送を担った五大力船の巨大な舵です。長さ約20mの船に取り付けられた舵の大きさは約3.5m。五大力船の舵として唯一現存する貴重なものです。舵とスクリーンに投影された映像で説明を観ることができます。



◀鷹野館長に説明していただいている時の様子。この舵がどれだけ大きいかが分かります。



インタビュー  
“中の人”に  
聞いてみました

# 博物館とまちの中で、ぜひ「本物」に触れてください

市原市の素晴らしいところは、歴史を語る文化財がまだ実際に町に存在している点です。つまり歴史博物館だけでなく、この場所を起点に町の中で本物の歴史に接することができます。これは歴史ファンにとってたまらない経験だと思います。

また、子どもたちにとっては教科書で学んだ事柄、古代・鎌倉時代、江戸時代、そんな各時代に、この地でどんな生活が営まれてきたのか、その本物を実際に目にすることができます。これも本当に素晴らしいことだと思います。私たちも、子どもたちが来館したときには、子どもたちの学校の近くにある遺跡のことなどを重点的にお話して、実際に見に行きたくするような情報を伝えていこうと心がけています。

さらに、エントランスにはレプリカの縄文時代の「イノシシ形土製品」、弥生時代の「人面付土器」などの「触れる展示」も豊富に用意し、子どもたちに人気です。

常設展示室では6つのテーマ「旧石器・縄文」「弥生・古墳」「古代・中世」「近世」「近現代」の順で貴重な歴史遺産や資料の展示を行っています。中でも5世紀に造られた「稲荷台1号墳」から出土した「王賜」銘鉄剣は必見です。また、特別展でも大評判だった埴輪も常設として豊富に展示しています。近世のコーナーでは江戸～明治初頭の絵図と現在の航空写真を見比べられる大型モニターがあり、多くの方が立ち止まる人気のコーナーです。

エントランスには情報コーナー、その奥には民俗展示室もあります。



▲市原市内「山倉1号墳」から出土した人物埴輪。養老川を見下ろす台地縁に築かれた前方後円墳に並べられていたものです。埴輪の表面を整える時につけられたハケメが、埼玉県鴻巣市にある埴輪窯群生出塚(おいねづか)遺跡で焼かれたものと一致することが確認でき、はるばる80km以上の距離を運ばれてきたことが分かりました。



市原歴史博物館  
学芸員(考古学) 鶴岡 英一さん



エントランスには壁一面に市原市の年表があり、「触れる展示」も用意されています。



▲縄文時代の土器は時期とともに変化していき、さまざまなかたちや文様が生み出されました。土器の違いが分かりやすく展示されています。



▲(左) 小貝塚では、縄文晩期のイノシシ形土製品が出土しています。全体の形がわかる貴重な資料です。(右) 三嶋台遺跡から出土した人面付土器。



▲市原市内の古墳の埋葬施設から出土した副葬品の数々。青銅鏡、鉄製の剣や刀、勾玉や琥珀(こはく)などさまざまな出土品が展示されています。



▲「弥生時代のムラと水田」。弥生時代中期のムラの様子を復元したもので、とても精巧に作られています。

# すごい!このホンモノを見逃すな!

## 「王賜」銘鉄剣



常設展示エリアの一角、人物埴輪の並ぶ部屋の奥に、少し暗く、壁に次々に青白いレーザーでさまざまな図形や文字などが表示される不思議な空間が。そして、その中央には縦型の透明ケースに入れられた展示物。市原歴史博物館最大の見どころの一つ「王賜」銘鉄剣です。

部屋の演出のせいか、それとも鉄剣そのものの放つ「魔力!」のせいか。その非常な存在感にまず圧倒されます。

「王賜」銘鉄剣は国産最古の有銘(文字が記された)鉄剣。市原市内の直径27mの

円墳の埋葬施設から、短甲・剣・鉄鏃・刀子・大刀・胡口(矢を入れて携帯するための道具)などとともに見つかりました。この鉄剣をはじめ武具の副葬がみられることから葬られたのは「武人」と考えられています。

剣に刻まれた「王賜」という文字が肉眼でもはっきりと確認でき、これは王から剣を授けられたことを表現したものと考えられています。では王とはいったい誰なのか。古墳の築造時期から推測すると、5世紀前半から後半にかけて在位したとされる「倭王 済(允恭天皇)」とする説が有力です。

## 体験してみよう!

歴史体験館では、こんな体験も実施中です!

市原歴史博物館の敷地内、すぐお隣にある歴史体験館では発掘現場、竪穴建物、古墳、納屋風建物が再現され、広い空間を活用しさまざまな時代の体験をすることができます。



### 【発掘体験】

市原市内にあった遺跡をそのまま再現して、発掘の体験をします。ここでは縄文土器の本物を発掘することができます。



### 【火起こし体験】

ユミギリ式の火おこしを体験することができます。ユミギリ式の火おこしは、弓のような道具を使って火種を作ります。火種を作るまでに体力を使いますが、火が付いた時の達成感は格別です。

### 《もっと知りたい! 千葉のおもしろ博物館》今月の誌上クイズ

※答えは、京葉銀行のホームページにある、「もっと知りたい! 千葉のおもしろ博物館」の第4回をご覧ください。



今回誌面でご紹介した、民俗展示室にあった巨大な展示物、「五大力船の舵」の大きさはどのくらいでしょうか。次の3つの中から正解を1つ選んでください。

- ① 約3.5m
- ② 約13.5m
- ③ 約20m

取材協力・撮影協力・写真提供/市原歴史博物館

プラスαで、未来とともに。

京葉銀行

ホームページでもご覧いただけます。

京葉銀行 情報誌 検索

LINE、Xからも「もっと知りたい! 千葉のおもしろ博物館」を配信しています。

LINE 公式アカウント @keiyobk\_official



X 公式アカウント @keiyobkofficial



正解は→① 約3.5m

2025.4  
(次回発行予定/  
2025年5月20日)